

2020年第3四半期の米国ベンチャー投資動向

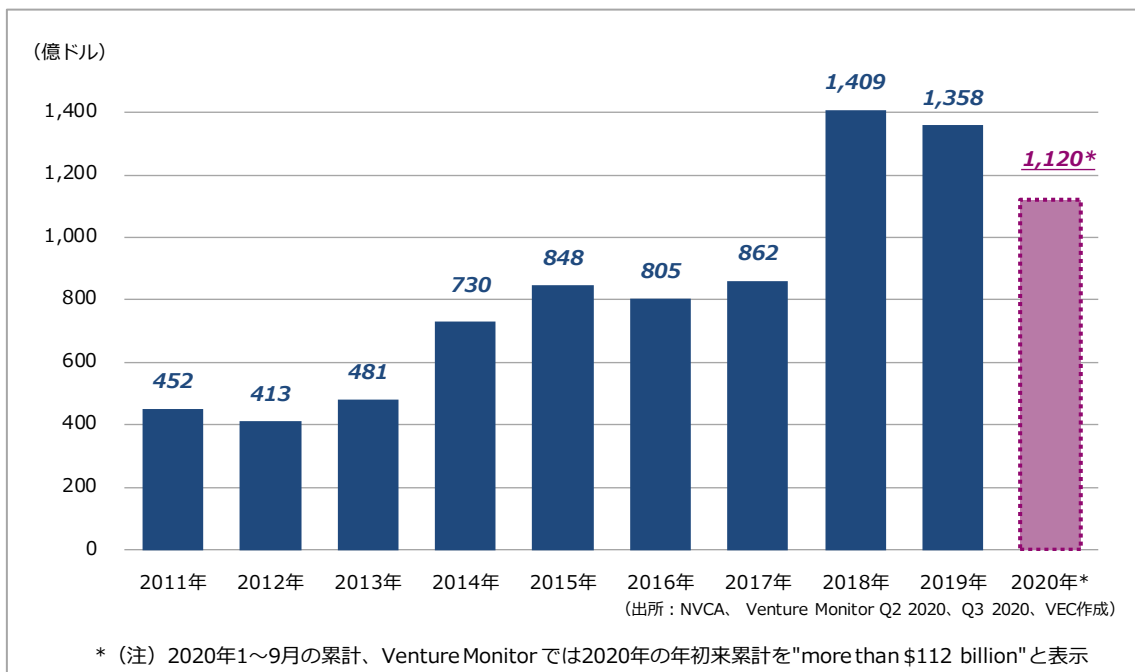
NVCA (National Venture Capital Association) の四半期レポート (Venture Monitor Q3 2020) に基づき、米国の2020年第3四半期のVC投資動向を概説する。

1. VC投資

(1) 大型投資がパンデミック下のVC投資を牽引

Venture Monitorによれば、2020年第3四半期(7~9月)のVC投資額は378億ドルを記録し、年初来累計は1,120億ドルを超え、すでに2019年通年実績(1,358億ドル)の82%以上に達している。

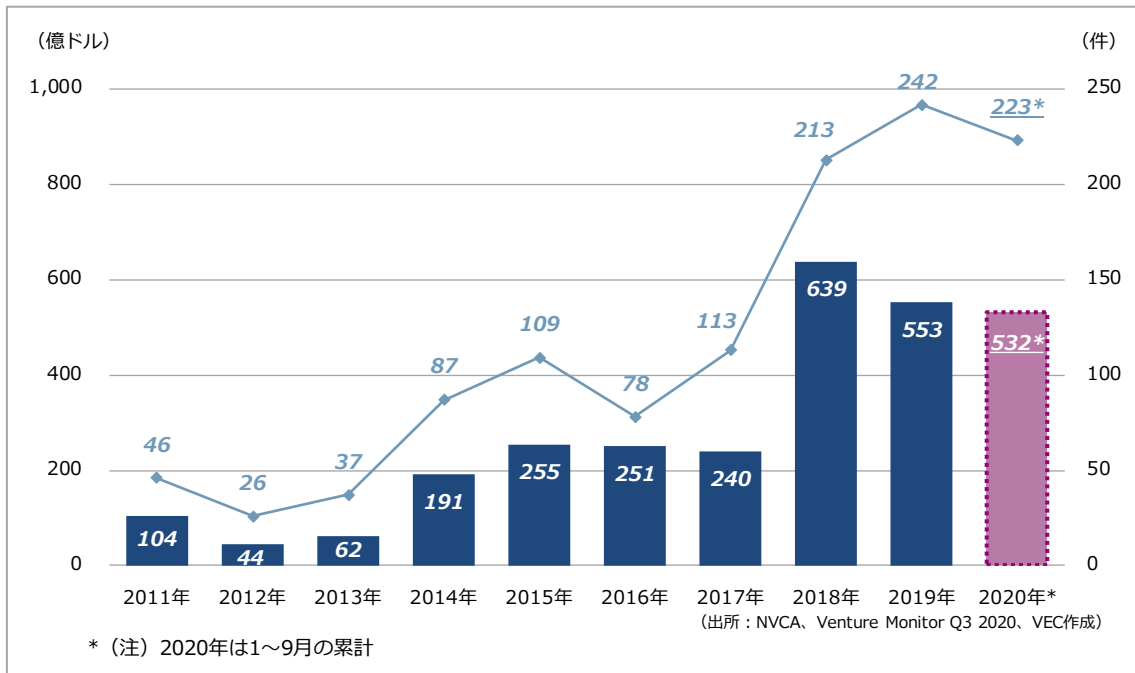
VC投資の推移



2020年第3四半期は、コロナ禍のパンデミックにもかかわらず、VC市場の力強さを示した四半期だった。この主たる要因は「レイター」ステージへの投資に求められる。

実際、2020年の1~9月で、1億ドル以上の大型投資は223件を数え、大型投資件数の期間新記録を更新した。同期間中の大型投資金額も532億ドルと、2019年通年の553億ドルにほぼ匹敵している。こうした取引の大型化の動きは、過去5年間継続しているが、パンデミックの到来がこの傾向をさらに加速して、先行きの不確実性と、なるべく強力な投資先を支援したいという願望とが、安全な投資先の選好に投資家を駆り立てたものとみられている。

大型投資の推移



(2) 「シード」「アーリー」への投資と、新規投資は、いずれも急減

大型投資が活況を呈する一方で、すべてのステージで投資が均一に伸びたわけではなく、「シード」と「アーリー」のVC投資件数は急減し、さらにベンチャー企業への新規投資の件数はそれ以上に急激な減少を示したことで、第3四半期の新規投資は10年ぶりの低水準に落ち込んだ。

Venture Monitor のレポートによれば、「シード」「アーリー」への投資の減少は数年前の「シード」への過度な投資活動の調整という面もあるとはいえ、女性が設立したベンチャー企業への投資の減少や、カリフォルニア、ニューヨーク、マサチューセッツという伝統的なVCハブ以外の地域での投資の減少など、コロナ禍の下で特有とも思えるいくつかの現象がみられたとしている。

(3) 業種別投資動向

パンデミックで苦戦している業種があるなかで、多くの新しいスタートアップ・テクノロジーが登場した。製薬やバイオのベンチャー企業が順調なのは当然としても、新型コロナは、他にもフィンテック、エドテック、遠隔医療のイノベーションなどの導入を加速させている。なかでもライフサイエンス部門が活況を呈しており、ワクチン、抗ウイルス剤、抗菌剤の開発・生産に焦点を当てた企業への投資が大幅に増加している。

2. ファンド組成状況

第3四半期までに VC は 228 本のファンドを組成して 566 億ドルの資金を調達し、すでに 2019 年の年間ファンド組成額、549 億ドルを上回った。Venture Monitor によれば、特に大型ファンドが引き続き盛況で、VC ファンドの 2020 年の年初来の中央値と平均値は 8,210 万ドルと 2 億 5,720 万ドルとなり、2019 年との対比で、それぞれ 64.2% 増、88.7% 増と大型化していることが指摘されている。

3. Exit 状況

第3四半期の Exit 金額は 1,039 億ドルに達し、既往データの四半期合計では 2 番目に高い数値を記録した。具体的には、Snowflake、Palantir、Asana、Unity の 4 社で第3四半期 Exit 総額の 64.8% を占めている。これら 4 社を含む第3四半期の 10 億ドル以上の大型 IPO は 13 件に達しており、これは 2020 年第 1 四半期の VC 支援 IPO の総件数を上回るものである。

公開に向けての新しい手段として特別買収目的会社（SPAC：Special Purpose Acquisition Company）がエコシステムで存在感をもつようになってきた。SPAC は証券市場への代替ルートを提供するもので、業界関係者の多くがその登場を長らく待望していた。待望論者の主張によれば、SPAC は IPO への合理的で簡素化されたアプローチを提供できるとしている。Venture Monitor のレポートでは、SPAC が単なる一時的な流行で終わるか、それとも社会に定着するかは、今後のマーケットの審判次第である、としている。